

令和 6 年度 御幸小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

自ら学び 自他のよさを生かし合いながら たくましく生き抜く児童の育成

【合言葉】かしこく やさしく たくましく 笑顔いっぱい みゆきっ子

- ・【確かな学力】自ら考え学び合う子
- ・【豊かな心】自他のよさを認め合う子
- ・【健やかな体】健康でねばり強い子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【めざす学校像】

- ・ 児童が安心して登校し，主体的に考えともに学び合う楽しさを味わえる学校
- ・ 教職員がチームとして高め合いながら，児童の成長を喜び合える学校
- ・ 保護者や地域が，地域の学校として誇りに思える学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

～自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成～

- (1) 教育目標の具現化並びに学力調査の結果を踏まえて課題を明確にし，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や地域資源を活用した創意工夫ある教育活動の展開とカリキュラム・マネジメントの充実を図る。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて，発達の段階や個に応じて各教科等での3つの資質・能力を明確にして育成する。
- (3) 個々の児童の学びを支える言語能力や情報活用能力，将来に向けたキャリア発達等を促すため，各教科等との関連を明確にし，教科等横断的な視点に立った資質・能力の向上を図る。
- (4) 教員の授業力や学級経営力，ICTを活用した効果的な学びの確立を図り，校内研修等を通して教員のチーム力を高める。
- (5) 教職員の働き方改革をさらに推進するため，勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組めるように，学校全体で一層推進する。

4 教育課程編成の方針

- (1) 目指す児童像の具現化に向け「なりたい自分になろう！みゆきっ子パワーアッププロジェクト」として，知・徳・体の調和を図りながら特色ある教育課程を編成する。
 - ① 基礎・基本の確実な定着と活用力の育成を図るため，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や一人一台端末の活用，言語活動の充実，個に応じた指導の充実に努める。
 - ② 互いのよさを認め合い励まし合う態度を育成するため，体験活動や心の教育を推進する。
 - ③ 心身の健康増進のため，基礎的な体力や健康管理能力，危険回避能力の育成に努める。
- (2) 全学年で取り組む共通目標については，学級活動において振り返り，児童自身のPDCAサイクルへの意識を高め，日常化にさせることで，児童の主体的な態度や協働的な課題解決力の育成を図る。
- (3) キャリア教育との関連を図り，自己肯定感の向上や将来に向けた「キャリア発達」を促す。学年に応じて重点化を図り，保護者と連携したキャリアパスポートの蓄積に努める。
- (4) 図書資料を活用した学習活動を重点的に取り入れ，読書活動や図書資料を活用した調べ学習を通して，新しい知識や語彙力を獲得しながら自分の思いや考えを友達に分かりやすく伝え，伝え合うことで自分の考えを広げ深められる児童の育成に努める。
- (5) 「情報モラル/デジタル・シティズンシップ教育年間指導計画」に基づき，一人一台端末を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現について推進する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校経営
○① 児童の学びの基盤である言語能力の育成や一人一台端末の効果的な活用、キャリア発達等については、各教科等の特質を踏まえた位置付けや重点化を図って育成する。
② 教職員の業務の効率化や勤務時間の適正化を行い、働き方改革を一層推進する。
(2) 学習指導
① 学習規律の徹底と基礎・基本の定着を図る。
② ICTを活用した主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を追究する。
③ 特別支援教育の視点を踏まえ、個に応じた指導の充実に努める。
④ 学校図書館司書やボランティア等と連携し、読書活動の充実に努める。
(3) 児童指導
① 集団生活マナーの徹底を図る。
② 個々のよさを認め励ます指導の充実に努める。
③ 道徳科を核とした宮っこ心の教育の推進に努める。
④ いじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応等に努める。
(4) 健康・体力
① 自ら健康・体力を高める意欲の向上を図る。
② 基礎的な体力、健康管理能力の向上を図る。
③ 家庭と連携した食を大切にすることの育成に努める。
④ 地域・家庭と連携した児童の安全確保、危険回避能力の向上を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価												
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	○主体的、対話的で、深い学びの具現化を図る。 「問い・見通し、課題解決、まとめ・振り返り」を基本とした授業実践 - 自分の考えを広げ深める、話し合い活動の充実 - 友達と協力して学び合う場の設定	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>90.5</td><td>89.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>86.9</td><td>87.5</td></tr></table> ・児童の達成状況は指標を下回った。保護者においては昨年度よりもやや上がったが、指標には届かなかった。前年度に引き続き、児童が「できる」「分かる」授業の実現に向けて全教職員で取り組んでいく必要がある。 【次年度の方針】 ・宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」をより意識した分かりやすい授業づくりに努める。また、協働的な学習や問題解決的学習など、児童が協力し合ったり教え合ったりする交流の場を設定し、考えを伝え合う楽しさや学び合うよさを実感できるような授業や活動の充実を図る。		R 5	R 6	児 童	90.5	89.6	教職員	100	100	保護者	86.9	87.5
	R 5	R 6														
児 童	90.5	89.6														
教職員	100	100														
保護者	86.9	87.5														

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○道徳や特別活動を通して自他のよさを認め合い豊かな心の育成を図る。 - 考え、議論する道徳の授業実践 - 学級活動、委員会・縦割り班活動、地域との交流活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>89.8</td><td>89.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.3</td><td>92.3</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・児童の達成状況のみわずかに指標を下回っているが、教職員や保護者、地域については指標を達成している。授業参観で思いやりやいじめに関する授業を公開したことが、保護者や地域からの理解につながったものと思われる。 【次年度の方針】 特別活動においてだけでなく、各教科においても、ペア活動やグループ学習を多く取り入れ、児童同士が教え合ったり、よさを認め合ったりすることができ学習の形態を工夫する。		R 5	R 6	児 童	89.8	89.6	教職員	100	100	保護者	95.3	92.3	地 域	100	100
		R 5		R 6															
児 童	89.8	89.6																	
教職員	100	100																	
保護者	95.3	92.3																	
地 域	100	100																	
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○目標を設定して取り組ませる指導を行う。 - 児童のよさを認め励ます指導の徹底 - 学期や年間の個人目標や学級目標の設定と振り返り - キャリアパスポートや元気っ子ファイルの有効活用 - 音読・計算カードを含めた家庭学習に関わるカードを活用し、目標やめあてを設定して学習に取り組ませるとともに、家庭との連携を図りながら指導を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>86.5</td><td>88.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.8</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>81.5</td><td>79.9</td></tr></table> ・児童、教職員の達成状況は指標を達成したが、保護者の肯定的回答割合は指標を下回った。 【次年度の方針】 学期や年間の個人目標・学級目標を振り返り、目標を達成できた喜びや自分の成長を実感できる機会を設定していく。キャリアパスポートを有効に活用し、保護者から励ましの言葉を書いてもらうなど、家庭の理解と協力を図る。また、家庭学習に関わるカードを活用し、目標に向かって学習に取り組もうとする意識をもたせるようにし、家庭にも啓発していく。		R 5	R 6	児 童	86.5	88.9	教職員	95.8	100	保護者	81.5	79.9			
	R 5	R 6																	
児 童	86.5	88.9																	
教職員	95.8	100																	
保護者	81.5	79.9																	
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○健康・運動への意欲の向上を図る。 - 外遊びやサーキットトレーニング、スポーツウィークの推奨 - 感染症対策の徹底を含めた家庭と連携した健康への意識の高揚 - 養護教諭と連携した保健指導 ○望ましい食習慣づくりを推進する。 - おにぎりの日とお弁当の日の実施 - 栄養士と連携した給食指導の充実 ○安全意識の向上を図る - 避難訓練や交通安全教室を通した対応力や危険回避能力の育成 - 一斉下校時の指導の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>89.8</td><td>88.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.8</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.0</td><td>88.7</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・児童と保護者の数値が指標をやや下回ったが、昨年度と同程度の数値であった。 【次年度の方針】 今年度の取り組みを継続しつつ、児童会が中心となって児童自身の意識を高める活動を行う。児童自身が安全に気をつけて登下校できているか振り返る機会を設ける。		R 5	R 6	児 童	89.8	88.2	教職員	95.8	100	保護者	89.0	88.7	地 域	100	100
	R 5	R 6																	
児 童	89.8	88.2																	
教職員	95.8	100																	
保護者	89.0	88.7																	
地 域	100	100																	

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	○目標を設定して取り組ませる指導を行う。 - 児童のよさを認め励ます指導の徹底 - 学級活動を軸とした自己有用感の醸成 - 家庭と連携したキャリアパスポートの蓄積 - 縦割り班活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>85.5</td><td>86.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>87.5</td><td>100</td></tr></table> ・児童、教職員ともに指標を達成している。教職員の達成状況が昨年度より向上しており、教職員の「ほめて伸ばす」という教育方針が、児童にもよい影響を与えていると思われる。 【次年度の方針】 本年度同様、学級活動を軸とした様々な自己実現場面等を設定し、自己有用感の醸成に努める。		R 5	R 6	児 童	85.5	86.5	教職員	87.5	100			
	R 5	R 6														
児 童	85.5	86.5														
教職員	87.5	100														
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	○英語に親しみ積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。 - ALT と連携した授業の充実 - 英語に親しむ環境整備 - 日常生活における ALT との交流機会の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>77.3</td><td>75.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・教職員の達成状況は 100%であるが、児童においては昨年よりも数値が下がり、指標も下回っている。 【次年度の方針】 英語でのやり取りや習った表現を使って考えを伝える機会を設定し、言語活動の形態を工夫した授業を展開していく。また、インタビュー活動など英語を多く使った体験的活動を取り入れ、英語による対話を楽しめる授業を工夫して行う。		R 5	R 6	児 童	77.3	75.1	教職員	100	100			
	R 5	R 6														
児 童	77.3	75.1														
教職員	100	100														
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	○教科や総合的な学習の時間で、御幸地区や宇都宮の特徴を考えさせる指導に努める。 - 宇都宮学の確実な実施 - 地域の歴史や文化、食などの地域資源や人材を生かした教育活動の充実 - 取組の様子を HP や授業参観時に掲示物等で発信	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>83.6</td><td>88.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>91.7</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>73.0</td><td>64.6</td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答は、目標指標を達成しているが、保護者の割合は昨年度より大きく下がっている。 【次年度の方針】 3 階にある「宇都宮学コーナー」の掲示物を活用し、児童や職員、保護者にクイズを出したり連絡網で配信したりしていく。また、宇都宮のよさや自慢を児童個人が紹介したり、親子で取り組んで宇都宮のよさを発見する機会を設けたりするなど、活動を工夫していく。		R 5	R 6	児 童	83.6	88.2	教職員	91.7	100	保護者	73.0	64.6
	R 5	R 6														
児 童	83.6	88.2														
教職員	91.7	100														
保護者	73.0	64.6														

2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯 定の回答率 85%以上	○積極的に活用した学習機会の充実に 努める。 ・学年や教科に応じた効果的な活用 ・児童の情報活用能力の育成 ・図書室の活用と図書館司書との連携	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>85.5</td><td>87.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.3</td><td>82.6</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者の肯定的 回答は上がっているが、保護者 においては指標を下回った。 【次年度の方針】 ・図書館司書と連携を図り、並行 読書や調べ学習に必要な図書資 料を準備したり、資料の活用の 仕方について支援したりしてい く。また、調べ学習だけでなく、 考えを共有したり、伝え合っ たりするなどの学び合い活動に おいても I C T 機器を効果的に 活用していく。		R 5	R 6	児 童	85.5	87.5	教職員	100	100	保護者	79.3	82.6
	R 5	R 6														
児 童	85.5	87.5														
教職員	100	100														
保護者	79.3	82.6														
2ー(3) 持続可能 な社会の 実現に向 けた担い 手を育む 教育の推 進	A 9 児童は、「持続可能な社会」 について、関心をも っている。 【数値指標】 ・児童・教職員の肯定的回答 率 85%以上	○学年に応じて環境や平和など、持続可 能な社会との関連を考える機会を設 ける。 ・教科や総合的な学習の時間のテーマ との関連 ・校内掲示や各種たよりを活用した SDGs 運動の啓発	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>86.5</td><td>85.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>79.2</td><td>95.7</td></tr></table> ・児童、教職員ともに指標を達成 している。教職員の達成状況が 昨年度より向上している。教科 書の改訂が行われた年度でもあ り、SDG s に対する指導内容が充 実した結果であると思われる。 【次年度の方針】 ・今後も、調べ学習における資料 を充実させたり、I C T 機器を 効果的に活用したりして、「持続 可能な社会」について関心をも てるように支援していきたい。		R 5	R 6	児 童	86.5	85.2	教職員	79.2	95.7			
	R 5	R 6														
児 童	86.5	85.2														
教職員	79.2	95.7														
3ー(1) インクル ーシブ教 育システ ムの充 実に向 けた特 別支援 教育の 推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 90% 以上	○児童の実態の把握と個に応じた指導 の充実に努める。 ・日頃からの児童に係る情報共有 ・特別支援教育コーディネーターを中心 とした校内支援委員会やケース会議 等での組織的な対応 ・保護者や関係機関との連携	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・昨年度同様、教職員の達成状況 は 100%であった。 【次年度の方針】 ・日頃からの児童に係る情報共 有や、特別支援教育コーディネ ーターを中心とした校内支援委 員会やケース会議等での組織的 な対応、保護者や関係機関との 連携の充実に努める。		R 5	R 6	教職員	100	100						
	R 5	R 6														
教職員	100	100														

3-（2） いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	○いじめ防止への意識の高揚と適切な対応に努める。 ・「いじめ」をテーマにした道徳の授業 ・学校・学年だよりによる情報発信 ・委員会でのいじめ防止集会等の実施 ・いじめ0標語やポスター制作・掲示 ・教育相談やアンケート（年4回）実施 ・保護者の考えるいじめ0標語の募集・掲示	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>94.4</td><td>93.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.8</td><td>76.3</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td><td>92.9</td></tr></table> ・児童や教職員、地域住民については指標を達成しているものの、保護者については大きく下回っている。児童の抱えている悩みが解決されておらず、保護者自身が学校の対応に満足を得ていない可能性が考えられる。また、学校で行っているいじめゼロ集会や人権標語の作成などについて、その内容や実態が具体的に分かっていない状況も考えられる。 【次年度の方針】 ・今後も、各種アンケートをもとにいじめに関する実態を早期発見していくとともに、保護者への連絡を密にとっていく。 ・来年度は、いじめゼロ集会を保護者にも公開し、学校における取組の実態を具体的に発信していく。		R 5	R 6	児 童	94.4	93.9	教職員	100	100	保護者	83.8	76.3	地域住民	100	92.9
		R 5		R 6															
児 童	94.4	93.9																	
教職員	100	100																	
保護者	83.8	76.3																	
地域住民	100	92.9																	
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○児童の実態の把握と児童の自己肯定感の向上に努める。 ・Q-Uや教育相談の結果を生かした不登校傾向の早期発見や早期対応 ・児童のよさを認め励ます指導の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>92.8</td><td>93.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.1</td><td>85.1</td></tr></table> ・数値目標を超えており、児童、教職員はほぼ昨年通りであったが、保護者の肯定的回答は、やや減っている。 【次年度の方針】 ・Q-Uや教育相談の結果を生かした不登校傾向の早期発見や早期対応、児童のよさを認め励ます指導の充実に努める。 ・各クラスでの児童のよさを認める取組や教育相談の実施による成果などをHPで伝えていく。		R 5	R 6	児 童	92.8	93.3	教職員	100	100	保護者	89.1	85.1				
	R 5		R 6																
児 童	92.8	93.3																	
教職員	100	100																	
保護者	89.1	85.1																	
3-（3） 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○児童のよさを認めたり児童の主體的な活動の充実に努めたりする。 ・児童のよさへの積極的な称賛 ・各種委員会、児童会、縦割り班等で児童を主体とした活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>91.8</td><td>93.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.0</td><td>83.6</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答率が指標を下回った。児童の肯定的回答率は向上しているため、保護者に向けたアピールが必要。 【次年度の方針】 ・個人面談で1人1褒めを徹底したり、個人内のよさを大いに認め、伸ばすなど、ほめ方のスキルを職員間で共有する。		R 5	R 6	児 童	91.8	93.9	教職員	100	100	保護者	91.0	83.6	地 域	100	100
				R 5	R 6														
児 童	91.8	93.9																	
教職員	100	100																	
保護者	91.0	83.6																	
地 域	100	100																	
3-（4） 多様な教育的ニーズへの対応の強化																			

4－(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A 14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	○授業のねらいや手立てを明確にし、個に応じた指導の充実に努める。 - 教材研究と個々の実態に即した支援の工夫 - 習熟度別学習，少人数指導の充実 - かがやきルーム担当教員，特別支援学級担任との組織的な連携	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>95.1</td><td>92.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>80.9</td><td>80.3</td></tr></table> ・児童，教職員の肯定的回答率は，指標を達成しているが，保護者の割合は指標に届いていない。 【次年度の方針】 - かがやきルーム担当教員，少人数指導担当教員と連携を取りながら，支援が必要な児童の特性に合わせた指導を行っていく。また，必要に応じて保護者と連携をとり支援を行う。 - 習熟度別学習やT・T学習が効果的に実施できるよう，児童の実態に応じた教材・教具の開発，個別な支援や手立てなど，学年全体で授業づくりを進めていき，きめ細やかな指導を充実させていく。		R 5	R 6	児 童	95.1	92.6	教職員	100	100	保護者	80.9	80.3
	R 5	R 6														
児 童	95.1	92.6														
教職員	100	100														
保護者	80.9	80.3														
4－(2) チーム力の 向上	A 15 学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答率 90%以上	○教職員の良好な人間関係作りに努め，組織力の向上を図る。 - 教職員間の情報共有と風通しのよい職場環境づくり - 多様な専門性を有するスタッフとの連携協力	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・昨年度同様，教職員の達成状況は 100%であった。 【次年度の方針】 教職員間の情報共有と風通しのよい職場環境づくりや，多様な専門性を有するスタッフとの連携協力を努める。		R 5	R 6	教職員	100	100						
	R 5	R 6														
教職員	100	100														
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A 16 勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答率 85%以上	○学校の運営の見直しや行事等の実施方法の改善を行う。 - 各種便りを HP やさくら連絡網で発信するなど，印刷作業の軽減化 - 会議や打合せの効率化，行事の精選 - ネットワークシステムの活用など効率的な職務執行 - リフレッシュウィーク（月 1 回）実施	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>87.5</td><td>87.0</td></tr></table> ・微減しているが，数値目標は達成している。 【次年度の方針】 各種便りを HP やさくら連絡網で発信するなど，印刷作業の軽減化や，会議や打合せの効率化，行事の精選に努める。ネットワークシステムの活用など効率的な職務執行を継続し，リフレッシュデーを実施していく。		R 5	R 6	教職員	87.5	87.0						
	R 5	R 6														
教職員	87.5	87.0														

5-（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 80%以上	○小中一貫・地域学校園の取組を効果的に実施する。 ・あいさつ運動，乗り入れ授業等の実施 ・中学校訪問や宮っ子チャレンジでの中学生との交流活動の実施。 ・小中一貫会議の様子をさくら連絡網，HPなどで公開（情報発信）	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>91.1</td><td>88.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>87.5</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>86.6</td><td>83.8</td></tr><tr><td>地 域</td><td>80.0</td><td>91.7</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答は100%であった。児童や保護者の数値目標は達成しているが，やや減っている。 【次年度の方針】 ・小中一貫会議における教職員間の共通理解が深まり，成果を感じられている。中学校と連携した学校園での具体的な取組（あいさつ運動，乗り入れ授業，中学校訪問）などを各種便りやHPで発信していく。		R 5	R 6	児 童	91.1	88.0	教職員	87.5	100	保護者	86.6	83.8	地 域	80.0	91.7
	R 5	R 6																	
児 童	91.1	88.0																	
教職員	87.5	100																	
保護者	86.6	83.8																	
地 域	80.0	91.7																	
5-（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A 18 学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○地域の人材や企業と連携した教育活動の充実 ・生活科，総合的な学習の時間，社会科等における校外学習やリモート学習，出前授業等の実施 ・あいさつ運動等，地域と連携した活動の実施 ・保護者参加型の行事の情報発信並びに参加の機会の複数化	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>90.1</td><td>89.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.4</td><td>91.0</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・児童の数値のみ僅かに指標に届いていない。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続しながら，出前授業等，実施できるものは依頼する。また，保護者参加型の機会を増やす。		R 5	R 6	児 童	90.1	89.6	教職員	100	100	保護者	88.4	91.0	地域住民	100	100
	R 5	R 6																	
児 童	90.1	89.6																	
教職員	100	100																	
保護者	88.4	91.0																	
地域住民	100	100																	
6-（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	A 19 学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○安心・安全な環境づくりに努める。 ・毎月の安全点検等での危険箇所や修繕箇所の把握及び迅速な対応 ・修繕箇所の把握と計画的な修繕 ・構内での安全確保に関する情報提供や注意喚起	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.5</td><td>88.9</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・保護者の数値のみ指標を下回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続しながら，安全に関わる取り組みを保護者に発信していく。 ・学習環境の整理整頓を日頃から徹底する。		R 5	R 6	教職員	100	100	保護者	93.5	88.9	地域住民	100	100			
	R 5	R 6																	
教職員	100	100																	
保護者	93.5	88.9																	
地域住民	100	100																	
6-（2） 学校のデジタル化推進	A 20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 90%以上	○機器や図書の整理，確認及び有効活用を図る。 ・定期的な点検や整備の実施 ・効果的な I C T 活用や図書活用に係る研修の実施	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>91.7</td><td>100</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は，100%であり，指数を達成した。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き，授業など教育的活動において，I C T 機器やタブレットを効果的に活用できる様々な取組を実践していく。 ・I C T 機能を高めるため，周辺機器の整備を行うとともに，有効に活用するための研修の充実を図る。		R 5	R 6	教職員	91.7	100									
	R 5	R 6																	
教職員	91.7	100																	

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 - 児童・教職員の肯定的回答率 90%以上 - 保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	○自分からあいさつできる実践力の向上を図る。 - 学級や児童会によるあいさつ運動の実施・振り返り（あいさつ週間、ポスター等） - 職員からの積極的なあいさつの励行、児童への称賛 - 家庭や地域と連携したあいさつ運動の実施	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>86.2</td><td>87.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>91.7</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>81.2</td><td>78.3</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td><td>92.9</td></tr></table> ・教職員、地域住民については、指標を達成しているものの、児童は指標を超えず、保護者は 80% に満たなかった。企画委員や 1 年生を中心に挨拶をがんばっているものの、返ってくる挨拶が元気でなかったり、家庭で活発な挨拶がなされていないなどという実態があるものと思われる。 【次年度の方針】 生活目標に挨拶の重点習慣を設定するとともに、みゆきっ子パワーアッププロジェクトにおいて、発達段階に応じた具体的な挨拶の姿を設定するなどして、挨拶に対する児童の意欲を高めていく。		R 5	R 6	児 童	86.2	87.2	教職員	91.7	100	保護者	81.2	78.3	地域住民	100	92.9
		R 5		R 6															
児 童	86.2	87.2																	
教職員	91.7	100																	
保護者	81.2	78.3																	
地域住民	100	92.9																	
B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○集団生活のルールを守って安全に生活するための実践力の向上を図る。 「みゆきっ子生活スタンダード」の徹底 - 学年、学級による「きまりやマナー」、生活目標の指導 - 帰りの会や学級活動等での振り返り	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>90.5</td><td>91.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.8</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.5</td><td>88.6</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>92.9</td></tr></table> ・児童や教職員、地域住民については指標を達成しているものの、保護者についてはわずかに指標に到達しなかった。 【次年度の方針】 生活目標にきまりやマナーに関する重点目標を設定するとともに、帰りの会で挙手などによる自己評価（振り返り）の時間を設け、意識を高くもって生活できるように支援をしていく。		R 5	R 6	児 童	90.5	91.6	教職員	95.8	100	保護者	90.5	88.6	地 域	100	92.9	
	R 5		R 6																
児 童	90.5	91.6																	
教職員	95.8	100																	
保護者	90.5	88.6																	
地 域	100	92.9																	
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 3 児童は自分のよさを理解し、より伸ばそうとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	○児童のよさを認め励ます指導の充実や互いのよさを認め合う機会の充実に努め、個々の自己肯定感の向上を図る。 - 帰りの会・学級活動などで互いのよさを認め合える機会の設定 - 各教科の学習活動での学び合いの場の設定	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>児 童</td><td>78.3</td><td>83.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.8</td><td>100</td></tr></table> ・指標を達成している。 【次年度の方針】 今年度の取り組みを継続し、より多くの場で達成感を味わわせたり、力を伸ばす助言を多くしたりするようにしていく。		R 5	R 6	児 童	78.3	83.5	教職員	95.8	100						
	R 5	R 6																	
児 童	78.3	83.5																	
教職員	95.8	100																	

B 4 児童は、授業中や集会等に、自分の考えを話したり、語彙力を生かして分かりやすく文に書いたりすることに慣れ親しんでいる。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	○授業中や集会等では、学年に応じた話し方を指導する。 《みゆきっ子パワーアッププロジェクト》かしこく 低学年 - 自分の考えを声の大きさに気を付けて話す。 - 友達の話静静地に終わりまで聞き、考えを伝え合う。 中学年 - 自分の考えを相手に分かりやすく話す。 - 友達の話をつなぎながら一生懸命聞き、話し合う。 高学年 - 自分の考えを理由をつけて分かりやすく話す。 - 友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、対話する。 - ぐんぐんタイムの活用を通して、学年・学級で日常的に漢字や語句の練習や文を書く活動に取り組む。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr> <tr> <td>児 童</td><td>75.3</td><td>80.5</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>91.7</td><td>95.7</td></tr> </table> ・児童、教職員ともに、昨年度よりも数値が上がっている。読書活動を意識した授業の取組により、児童が自分の考えを表現する意欲が高まってきていることがうかがえる。 【次年度の方針】 - 国語科において、並行読書を取り入れ、自分の考えを表現する力を伸ばせるよう指導していく。 - 授業の中で、目的に応じた話し合い活動を充実させるとともに、児童のよりよい考えや表現を生み出せるよう支援・指導を工夫していく。		R 5	R 6	児 童	75.3	80.5	教職員	91.7	95.7			
	R 5	R 6												
児 童	75.3	80.5												
教職員	91.7	95.7												
B 5 学校は読書活動を積極的に推進している。 【数値指標】 教職員・保護者・児童の肯定的回答率 90%以上	○図書室利用を活性化するため、多様なジャンルの本に触れる機会をつくる。 - 司書によるブックトークやボランティアによるお話し - 各種イベントの実施 ○読書ファイルの活用や学年だより、図書だより等での呼びかけや家読の取組など、家庭での読書を奨励する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr> <tr> <td>児 童</td><td>77.0</td><td>88.2</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>86.6</td><td>86.6</td></tr> </table> ・児童、保護者の数値目標は達成しなかったが、児童の肯定的回答は大幅に向上した。職員の達成状況は 100%だった。 【次年度の方針】 図書だよりや読書に関する情報を図書室クラスルームで掲載し、児童の目に触れやすいようにする。中央図書館とも連携し、夢のキャラバンによる読み聞かせを行う。ブックトークや並行読書を充実させ、本に出合う機会を多く設ける。		R 5	R 6	児 童	77.0	88.2	教職員	100	100	保護者	86.6	86.6
	R 5	R 6												
児 童	77.0	88.2												
教職員	100	100												
保護者	86.6	86.6												
B 6 学校は保護者と連携して、家庭学習の習慣化と基礎・基本の定着に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員・保護者・児童の肯定的回答率 80%以上	○学習効果が期待される家庭学習の取り組み方についての研究 - 保護者と連携した基礎・基本の定着 - ステップアップシートの活用等、目標を明確にした学習意欲の維持・高揚 - 家庭学習への評価や見取り	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr> <tr> <td>児 童</td><td>72.7</td><td>81.8</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>79.9</td><td>80.7</td></tr> </table> ・教職員の肯定的回答率は 100%であり、児童、保護者の達成状況は指標を上回った。 【次年度の方針】 - 漢字・計算力を高め、既習内容の確実な定着のために、AI ドリルやステップアップシートを有効に活用し、基礎・基本力をさらに高めていく。 - 次年度も引き続き「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」を活用し、家庭学習の推進と習慣化を図っていく。また、学級懇談会での話題として取り上げ、保護者に協力を呼びかけ、さらなる充実を図る。		R 5	R 6	児 童	72.7	81.8	教職員	100	100	保護者	79.9	80.7
	R 5	R 6												
児 童	72.7	81.8												
教職員	100	100												
保護者	79.9	80.7												

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 めざす児童像

- ① A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」では、児童の肯定的回答は、微減し、保護者は微増であった。宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」をより意識した分かりやすい授業づくりに努める。
- ② A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」では、児童の肯定的回答は4%以上増加したが、保護者が9%弱の減少となった。3階東通路の「うつのみやコーナー」を保護者へより周知し、興味を持ってもらえるよう「うつのみや学クイズ」をさくら連絡網で配信するなどしたが、足りなかった。児童が興味を宇都宮の知識を増やしていることを周知していきたい。
- ③ B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」では、児童の肯定的回答は微増したが、保護者及び地域住民では減少している。児童の家庭や地域での挨拶の実態を調査し、学校・保護者・地域で挨拶の励行を進められるようにしていきたい。

2 めざす教職員・学校像

- ① A11「いじめが許されない行為であることの指導」では、昨年度に引き続き、児童・保護者とも肯定的回答は減少となった。いじめ防止については、道徳や学級活動で取り上げる他、児童会主催の「いじめゼロ集会」でも呼びかけるなど児童自らの継続的な働きかけを続け、内容も向上している。保護者へ広く啓発の意識が伝わるよう、さらに新たな手立てを講じていく。
- ② A16の「業務の効率化」については、教職員の肯定的回答が微減している。さくら連絡網の活用やICT活用、業務負担の平準化に加え、政府の学校における働き方改革答申が整理した「学校・教師が担う業務に係る3分類」（「基本的には学校以外が担うべき業務」、「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」、「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」等を基にした業務の見直し、リフレッシュ day の促進など、負担の軽減に努める。

3 本校の特色

- ① 今年度から始めた学校図書館教育研究では、単元に関わる並行読書を進めたり、それらを活用した発表を通して語彙力を伸ばしたりすることを始めている。図書に係る以下の3つの項目では、昨年度よりも肯定的回答率の増加が見られたことから、今後も研究を維持、発展させ、本校児童の読解力や語彙力等の向上に努めたい。
- ・A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」児童の肯定的回答率が87.5%であり、2%増加。
 - ・B4「児童は、授業中や集会等に、自分の考えを話したり、語彙力を生かして分かりやすく文に書いたりすることに慣れ親しんでいる。」児童の肯定的回答率が80.5%であり、5%以上増加。
 - ・B5「学校は読書活動を積極的に推進している。」児童の肯定的回答率が81.8%であり、9%以上増加。
- ② B3「自分の良さを理解し、伸ばそうとしている」とB4「自分の考えを話す」を昨年度の結果と比較すると、昨年度は、B3の肯定的回答が減少していたが、今年度は、どちらも肯定的回答が増加している。多岐にわたる教育活動において、めあてと振り返りを丁寧に行ってきた結果と思われる。

7 学校関係者評価

- ・児童が元気に学校生活を送っていて、先生方によく見てもらっていると感じる。
- ・自主的に行っている火曜・木曜のあいさつ運動は、校庭外まで聞こえるほどの児童の大きな声が非常に良い。学校だけでなく、家庭や地域でも挨拶ができるように、ぜひ続けてほしい。
- ・昔遊びを通じた地域の高齢者との活動は、地域の方も児童と楽しく触れ合うことができ、児童も教師以外から楽しく学ぶことで、意欲的に活動できている。
- ・「高齢者との交流会（すみれ給食会）」は、隣接しているコミュニティセンターで児童と高齢者が交流できる貴重な場であり、児童の学習の成果を見せるよい機会でもある。情操教育としても効果があると思われ、高齢者もとても喜んで毎回楽しみにしている。ぜひ、継続してもらいたい。
- ・せっかく行っているいじめゼロ活動や宇都宮学クイズなど、よい活動が保護者に認識されていない。ホームページやさくら連絡網での周知や保護者公開を実施するなど工夫するとよいのではないか。
- ・これからも学校だよりや懇談会で学校目標を家庭や地域に示し、学校の思いを伝えていく。
- ・不登校対策は、これまでのように、別室登校や各部機関との連携など、児童や家庭に無理なく継続できる方法を選択していく。
- ・宿題の必要性ややりがいなどが家庭に浸透できるとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 宇都宮モデル「はつきり・じっくり・すっきり」の授業展開を実践し、主体的・対話的な活動を取り入れ、考えを深め広げられるよう授業改善に取り組む。また、学校図書館教育研究に一層励み、児童の読解力・語彙力の向上に努める。
- 朝の学習で書く活動を取り入れたり、授業中の様々な場面で発表する場を取り入れたりすることで、児童が自信をもって臨めている。今後もペアやグループ活動を取り入れながら授業を組み立てていく。
- ・児童が学校内外問わずに挨拶ができるよう、家庭や地域も一緒になって行うあいさつ運動の工夫に努める。
- ・御幸地区コミュニティセンターでの高齢者との交流や低学年の地域の高齢者との触合い活動を継続し、相手を思いやる心の醸成や自己肯定感の向上につなげていきたい。
- ・いじめゼロ集会や宇都宮学クイズ、芸術鑑賞等において、校内だけでなく、保護者や地域住民が参加できる機会を増やしたり、児童とともに活動したりする機会を設け、教育活動の周知を図る。
- 学校は、地域・保護者と連携・協力しながら、各種行事や教育活動の充実に努めていく。小中一貫教育の取組については、さくら連絡網やHPなどで公開するなど、外部への情報発信を積極的に行っていく。
- ・本校の課題であった家庭学習が、保護者の協力を得られつつある。次年度も引き続き、「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」を活用したり、学級懇談会でも話題として取り上げたりしていきたい。
- ・ホームページなどで活動を公開する際には、活動の様子だけでなく学習のねらいも文章に入れるなど、学校目標の周知・理解が促進されるようにする。
- ・学校業務の効率化については、管理職から進んで業務内容の見直しや精選、効率化を進め、改善を促進する雰囲気醸成に努める。また、PTAや地域協議会等の協力が得られるものについては積極的に声をかけ、活動のねらいを明確にしたうえで協働活動ができるとよい。
- ・児童の肯定的回答率が昨年度に比べ、増加している項目が多く、今年度の取組が児童の満足度や達成感に大きくかかわっていることが分かった。今年度の取組を基本とし、さらなる教育力向上に努める。
- ・教職員がチームとなり、一丸となって研究に取り組んだり、児童の成長のために話し合ったりすることができた。次年度も風通しの良い職場を心掛け、子供たちの笑顔のために取り組んでいきたい。